

(事後評価)

輝け、女性研究者！根を張れ、花咲け、実を結べ@北大

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：北海道大学（総括責任者：山口 佳三）

プロジェクトの概要

- (1) 新規養成女性研究者（女性教員）の採用計画（F3 プロジェクト）
 - ・理・工・農系で、応募者を女性に限定した人事案件を募集し、毎年 5 名（配分目安：理 3、工 1、農 1）、5 年間で計 25 名の女性教員を採用。
 - ・新規採用女性教員（Fresh Female Faculty; F3）に係る人件費の採用部局負担を 3 年間ゼロ、続く 5 年間は 1/2 に軽減して採用促進。
 - ・助教採用の場合、養成強化期間 3 年を通常任期 5 年に加え、最短でも 8 年の安定した雇用・研究環境を保障、任期更新と出産等による延長を加えた最長任期 15 年。
- (2) 女性研究者（女性教員）養成のための主な取組内容
 - ・研究費支給（1 年目：150 万円、2～3 年目：各 100 万円）、複数メンター配置
 - ・FD 教育・リーダーシップ教育（本学各種人材育成プログラム＋海外育成プログラム）
 - ・出産・育児等期間への研究支援員配置
- (3) 期待される効果
 - ・理・工・農を中心に理系女性教員数の増加、女性教員採用比率の向上
 - ・「数」の効果で採用部局及び全学的な意識改革の促進・ロールモデルの増加により女性研究者の加速的増加及び活躍促進へと向かう正のスパイラルの開始

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	女性研究者 支援システム 改革	取組の内容	実施体制	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

機関独自の女性教員採用方式（ポジティブアクション北大方式）に加え、女性限定教員国際公募を行い、理・工・農学系分野の優れた女性教員を国内外から助教として採用、養成する F3 プロジェクトを実施することにより、所期の目標を上回る女性教員を採用し、養成を進めたことは評価できる。今後は、上位職階の女性教員の積極的な採用や、機関が掲げる女性研究者比率数値目標（20% by 2020）の実現に向け、さらなる取組を進めることを期待する。

- ・**目標達成度**：ポジティブアクションを効果的に機能させ、所期の数値目標を達成したことは評価できる。女性教員の多くが助教での採用となっているため、今後はこれらの女性助教を養成し、上位職への昇任を進めることを期待する。
- ・**女性研究者支援システム改革**：特別な女性枠ポストを設けず、通常の教員採用に女性限定公募

を組み込む工夫を行い、外国籍女性教員を含む優れた女性教員の採用を進めたことは評価できる。また、メンターフォースというメンター集団を導入したメンタリング制度、教育経験の乏しい助教を対象とした教育スキルアップ支援など、特徴的な養成システムを構築したことも評価できる。男女共同参画に関する全学的な意識はまだ醸成の途上であり、さらなる促進を期待する。

- **取組の内容**：外国籍の女性教員の積極的採用、国際学会参加経費支援、国際シンポジウムの開催、英語によるコミュニケーション力向上支援等、国際的に活躍できる女性研究者の採用、養成を図った取組は評価できる。今後は、それらの取組の成果について評価、検証を行うことを期待する。
- **実施体制**：総長の主導により、男女共同参画担当理事、研究担当理事が積極的に本事業の遂行に当たった。また、事業推進委員会、部局、女性研究者支援室の連携が適切になされており、優れた実施体制であったことは評価できる。
- **今後の進め方**：全学的なコンセンサスの下に女性研究者比率数値目標（20% by 2020）を明確に示していることは評価できる。今後は、本事業で構築した採用・養成システム（F3 プロジェクト）を継続、発展させ、女性研究者研究活動支援事業（拠点型）や研究大学強化促進事業において女性研究者の育成強化を図り、国際的に活躍できる上位職階女性教員の増加を図ることが期待される。